

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471900694
法人名	社会福祉法人 心の会
事業所名	さくらの家 一番館
訪問調査日	平成23年11月16日
評価確定日	平成24年1月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900694	事業の開始年月日	平成11年10月1日	
		指定年月日	平成11年10月1日	
法人名	社会福祉法人 心の会			
事業所名	さくらの家 一番館			
所在地	(238-0026) 横須賀市小矢部4-17-4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>さくらの家一番館は衣笠山の中腹の団地の閑静な住宅地にあり、季節折り折りの景色を楽しめる環境にあります。特に春は桜の名所として、秋は紅葉がとてもきれいです。ご入居者様はこの恵まれた自然の中で、毎日のように散歩をして景色を楽しみながらゆっくりと生活を送っています。さくらの家は二番館・三番館が同じ団地内にあり、ご入居者様同士の交流も盛んに行われ、合同の行事などで楽しむ事ができます。地域にとっても良く根付いていて、近隣の方々の協力を得てバザーや夕涼み会などの地域と協力した行事なども行われています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年11月16日	評価機関 評価決定日	平成24年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①このホームの経営は社会福祉法人心の会である。心の会は平成3年の「こころ豊かな老後を共に考える会」を起源とし、平成6年に知的障害者生活ホーム「生活の家あすなろ」を設立、平成11年に社会福祉法人に改組以降、定員50名の高齢者デイサービス、訪問介護、居宅介護支援、知的障害者授産施設「あすなろ学苑」を開設、また平成11年10月、同じこの地にグループホーム「さくらの家一番館」を開設した。地理的に言えばJR衣笠駅から徒歩15～6分の高台に開発され、40年以上経つ団地の中にあり、市街地に隣接しながら見晴らしの良い環境の良い所にある。法人の理念は「住みなれた地域で在宅で生活を続けて頂く」とあり、グループホームも在宅の1つであり、また、在宅の受け皿と考えている。知的障害者関連の施設もあり、ノーマライゼーションの精神に則り、高齢者、認知症の方、障害者が、一般の住民の方と分け隔てなく平等に人生を楽しめるよう、理念に定め支援している。ホームのスタンスは理念にブレの無いケアであり、人生充実のために行事、買い物、植物栽培など具体化出来るようケアを心がけている。利用者がやりたいと言う場合「無理!」と考えず、「何とかならないか?」と前向きに考えてケアにあたっている。</p> <p>②教育についても、主体は理念であり、その具体化を中心とし、理念を具体化するのが職員の役割であると指導している。法人は教育に熱心であり、職員も勉強する意欲が旺盛である。さくらの家一番館、二番館、三番館の5ユニットの常勤会議では理念・方針のブレの無いこと、ベクトル合わせを行っている。職員全員がホスピタリティに富み、優しい気持ちの持ち主であることはこの法人の大きな特徴である。</p> <p>③地域との関係については、20年余前に知的障害者グループホームを古いアパートを借りてスタートし、近隣の方が世話人として協力して頂いている。その際世話人の方々も法人の協力者となり、今も尚、その方々は地域に住まい、ご協力頂き、平等に人生を楽しめるようにと、福祉への理解と意識が高く、支えて頂いている。創始者の前理事長は、地域の福祉、ボランティア活動を牽引した人格者である事も、この地域の理解を得る大きな力となっている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	さくらの家一番館
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊重・自分の家と同じような、ごく普通の暮らし・地域との関わりを大切に」を事業所独自の理念としている。職員には、入職時より理念についての説明を行っており、各自がポケットサイズに縮小した理念を携帯し、理念の共有をしている。職員は買物・散歩・近隣との交流などを理念に沿って実施している。	「個人の尊重・自分の家と同じような、ごく普通の暮らし・地域との関わりを大切に」を事業所独自の理念としている。職員には、入職時より、理念についての説明を行ない、各自がポケットサイズに縮小した理念を携帯し、理念の共有を図っている。職員は買物・散歩・理念に沿った近隣との交流を実施している。年1回の職員総会では理事から理念についての話が必ずあり、月に1回行われる会議では理念を念頭においた目標をたて、経過・評価を行っている。心の会の職員全員が理念を信奉していることを実感として伝わっている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤・散歩時などの挨拶を励行し、実施している。夏祭りや餅つきなどの大きな行事には、地域の方々の協力を頂き、実施できている。	出勤・退勤・散歩時などの挨拶を励行し、実施している。自治会に加入し、心の会で自治会長も引き受けたこともある。草むしりや避難訓練に参加し、回覧板も回ってくる。ホームの夏祭りは三番館の前の駐車場で模擬店なども出し、ご近所と一緒に楽しんでいる。さくらの里のお餅搗き大会は地域のボランティアも参加して、出来たお餅をご近所にも配っている。ボランティアは沢山来てくれている。また中学生の体験学習も受入れている。近所の障害者作業所あすなろからパンを売りに来るので購入している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に行事などの参加を通じて、ご入居者様との関わり合いを持つ機会を作る事で、実際の場面での説明や支援の方法などを伝えさせて頂き、理解を広げている。介護や認知症の相談に関しては、常に受ける様になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所会議では、地域の方との意見交換を行い、そこで出たアイデアの防災訓練や夕涼み会を実施したりとサービスや地域との関係などの向上につなげている。	運営推進会議の事業所会議では、地域の方との意見交換を行い、そこで出たアイデアの防災訓練や夕涼み会を実施したりと、サービスや地域との関係などの向上につなげている。メンバーは民生委員、地域代表、利用者及びご家族、市役所の方（年1回参加）である。運営推進会議は食事会、昼食会と併設し、利用者及びホームを知って頂き、また、防災訓練のアイデアなどアドバイスを頂いている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市グループホーム連絡協議会を通じて、行政との連携を図っている。二番館の管理者は、副会長を務めている。	横須賀市グループホーム連絡協議会（行政も必ず参加している）を通じて、行政との連携を図っている。二番館の管理者は、副会長を務めている。地域包括支援センターには権利擁護、秋まつり（旧運営推進会議のブロック会議メンバーの交流会）などで協働を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加して、正しい理解に努めている。会議等で基準に関して検討し、身体拘束のないケアを実施している。	身体拘束に関して、職員は、積極的に外部研修や講習会に参加して正しい理解に努めている。会議等で基準に関して検討し、身体拘束のないケアを実施している。鍵は基本的にオープンにしている。（エレベーター、玄関）言葉については、命令口調や上から目線が少しでも見られれば厳しく注意している。言葉のやりとりは楽しくなければと考えて、モラルに沿って行っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての外部研修へ積極的に参加している。内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認にしている。虐待に関する自己チェックも実施して、理解できていない所を再確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強をフロア会議で実施している。職員が制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、活用されているご利用者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様にしている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族会を開催している。制度の改正や法人の方針などを報告して、その場で全体的な意見等をうけるようにしている。ユニット毎に関する細かな意見については、懇親会形式で実施をし、身近な意見やユニット独自の意見の吸い上げを行い、運営に生かしている。	毎年、家族会を開催し、家族会では、制度の改正や法人の方針等の報告を行い、全体的な意見等を頂ける様に取り組んでいる。身近な意見等については、懇親会形式で実施し、独自の意見抽出を行い、運営に活かすよう努めている。利用者の意見については後述の思いや意向の把握に沿い、可能な限り実現出来るよう努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人運営会議に管理者が参加して、フロア会議等が出た意見を提案できる場が設けられている。積極的に意見等を集約して、反映に努めサービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。	法人運営会議に管理者が参加して、フロア会議等が出た意見を提案できる場が設けられている。また、職員アンケート等を実施し、意見等を集約し、サービスや働きやすい職場環境の向上の反映に努めている。4月の年度契約更新に向けて1～3月に面接を実施している。また、法人の中で全職員に対する項目の多い、詳細なアンケートを行い意向を確認している。年度末には運営会議を行い、人事評価、賃金評価に反映している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が職員の勤務の状況などから推薦した職員の表彰がある。新たな資格の取得者には、手当と表彰があり、正職員への昇格などの機会も得られるなど環境や条件が整備されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの自発的な希望に沿って研修に参加出来るようになってきている。レベルアップに必要な研修については、本部より要請があり、勉強の機会を与えられている。非常勤職員にも年1回以上の外部研修への参加の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり、研修会を実施している。その中で交流をもつ機会が得られている。交換研修では、お互いの職員を交換して、良い所を取り入れサービスの質の向上ができる様になっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などの説明とご本人様・ご家族様の困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問して、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様やご本人様と良く話をし、関係性をつくり、ニーズなどを理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの電話や見学の際に、状況をお聴きして、困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念として、ご入居者様が人生を楽しめる支援をしている。一緒に食事や買い物などをして、生活を共有している。若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に家族を交えて相談をしている。職員だけの意見だけではない様にしている。受診や行事などもご家族様に参加して頂くなど共に支え合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人との手紙や電話の支援を行い、関係が途切れない様に努めている。面会も常に受け入れる姿勢を持ち、ゆっくりと過ごして頂ける様に配慮している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、摩擦やトラブルを未然に回避するようにしている。座席などを工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居された方への面会やお葬式などに参加させて頂いたりして、関係が継続できる様にし、経過のフォローに努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報から、思いや希望などを聴き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情などから察して、思いに沿ってあげられる様している。会議で出来る事を見つけ支援につなげている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向について、日常の利用者との会話やご家族から頂く情報等から把握に努めている。困難な方については、表情や行動等から察して、本人の思いに副えるよう会議等で話し合い、支援に努めている。FDARにより、F：フォーカスチャーティング、D：データー・根拠、A：アクション、R：レスポンス・評価により、Fに情報を入れて分析し、思いを理解するよう努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話の中で昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聴いたりして、情報を集めている。ご家族様にも生活歴等を聴いたり、本人様との会話の中のやり取りを伝え、思い出して頂いたりする中から把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、情報を集めている。毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握して、ご本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、家族の希望やご本人様との会話などからの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して、様々な角度から検討して、その人らしい生活が送れる様になっている。	介護計画を作成する場合、家族の希望やご本人との会話等からの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して健康面でのアドバイスを頂き、様々な角度から検討して、その人らしい生活が送れる様に支援している。また、ICF的なプラス思考で、認知症でも楽しく過ごせるよう支援している。カンファレンスは毎月、全員で行い、観察の状況、暮らしが変わった時の対応、介護計画の見直しについても話し合いを行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・結果気づき等は、個別の記録に記入している。記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。日中は黒ペン・夜間は青ペン・医療は赤ペン・看護師は蛍光で囲むなどして見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの行事やイベントへの参加が出来る、外出や旅行などを楽しむ事ができる。同一の団地内には、二番館・三番館があり、交流やバザー・夏祭りなど楽しむ事へ支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや自治会などとの交流が盛んな事から、お互いが顔見知りですぐ散歩や喫茶店など安心して楽しむ事が出来ている。中学校などの職場体験などを受け入れる事で子供達と接する楽しみも得られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談して、紹介などの上で専門医へ納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様にしている。	受診は、基本的に本人及びご家族の希望で個々に契約したかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる場合は、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族の納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様に支援している。現在は4医院が往診してくれている。看護師は1人で関連3グループホームを受け持ってもらっている。訪問歯科は必要な時に依頼し、往診頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記して、事業所で出来る対応を明確にしている。地域医療とも協力して、ご家族様の希望に沿う様にしている。	重要事項説明に重度化・看取りに関して、具体的に明記されている。事業所で出来る対応を明確にし、かかりつけ医とも協力を図り、ご家族の希望に沿うよう支援に取り組んでいる。身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施し、対応に努めている。往診の先生、家族と話し合い、看取り対象か否かを判断した上で、此处で対応可能か否かも確認して方向性を決めている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人一人の緊急マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。消防署に依頼しての避難誘導・煙体験・防災講話などを実施。夜間想定した訓練の実施。訓練毎に出た問題点を改善する様にして避難の方法を高めている。近隣の方とは、日常から交流を持ち、協力を得られる様にしている。	消防署に依頼しての避難誘導・煙体験・防災講話などを実施している。夜間を想定した訓練も実施した。訓練毎に出た問題点は改善する様にし、避難の方法を高めている。近隣の方とは、日常から交流を持ち、協力を得られる様にしている。備蓄は水、乾パン、米、缶詰などを持っている他、本部にも備蓄がある。被災者の受け入れについては本部を含めて全体で地域の受け入れ先になることを明言し、家族も、動物も受入れOKとしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重と人生の充実を理念としている。職員が一人ひとりを大切にして、入居者様個人の性格に合った対応を心がけている。	「個人の尊重と人生の充実」を理念とし、入居者一人ひとりを大切にして、個人の性格に合った対応を心がけている。人格の尊重とプライバシーの確保には充分配慮している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物などご本人様の希望を選択出来る場面を作った支援している。「～はどうされますか」の様に自己決定を促すような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由に行っている。家事や散歩などは希望を確認してから、支援している。ペースや希望を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スカートなど好みで馴染みの服装をして頂いている。理容では、訪問美容師により、希望に沿った髪形にして頂いている方やご家族様と外出して、馴染みの美容院へ行かれるなど、個別にあった支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ること主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどして、食事の支度を一緒に行っている。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、会話などして楽しみの幅が広げられる様に支援している。食後の片付けも一緒に行っている。	管理栄養士がいて、3グループホームのメニューを作成している。3ホームの給食会議を持ち、自由に意見が云える体制にある。一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの、食事の支度を一緒に行っている。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、楽しみの幅が広げられる様に支援している。食後の、片付けも一緒に行っている。毎週フリーメニューの日を作り、地元の商店街、スーパーを利用して、利用者とメニューを決め一緒に買い物に行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、プランを立て、個別の工夫を行っている。個別には、減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・ケアなどに分けて実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。	一人ひとりの排泄パターンをチェック表等で把握し、声かけや定期的にトイレ誘導を行うことで、失敗の軽減に努めている。自分からトイレと伝えられない方には、時間を見計らいながら誘導している。尊厳、羞恥心には充分配慮し、起きた時、寝る時、人のいない時などに自然に誘導している。個人別に対応することが重要と考えている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と繊維物や水分の摂取・運動など個別に対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特に曜日や順番は決めず、ほぼ毎日行っている。特にゆっくりと入りたいなどの希望の方には、入浴の楽しみをケアプランとして個別に支援している。	入浴は、曜日や順番は決めず、ほぼ毎日行っている。特にゆっくりと入りたいなどの希望の方には、入浴の楽しみをケアプランとして個別に支援している。週に2～3回、マンツーマンで、楽しい計画（お風呂での楽しい会話など）で行い、お風呂で疲れないよう配慮している。お風呂は好きな方が多い。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩などは体力などに合わせている。就寝時間は生活歴に合わせて、個々のタイミングで支援して、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりへの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様に協力をお願いして、外食や知人への訪問などをして頂き、希望に沿った支援をしている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。	ご家族の協力により、外食や知人への訪問等をして頂いている。希望に沿った支援をしている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。お散歩は毎日、買い物ドライブ、ミニドライブ、馴染みの美容室、外食など行っている。屋上での干し物は利用者と一緒にいき、日光浴も兼ねている。ミニドライブでは久里浜花の国、河津桜、菖蒲園などに行っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話をかけたり、受けた電話を本人に回す支援をしている。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い共用空間の衛生面を整え不快のない様にしている。夏場の光などには、すだれを掛けるなどして、快適に過ごせる様な工夫をしている。季節の書道や貼り絵などを取り入れ、ご入居者様と作成した作品を飾るなどの工夫をしている。	毎日掃除を行い共用空間の衛生面を整え不快のない様に努めている。夏場の光などには、すだれを掛けるなどして、快適に過ごせる様な工夫をしている。季節の書道や貼り絵などを取り入れ、利用者で作成した作品を飾るなどの工夫をしている。季節の飾り絵は大作を1点、利用者と一緒に製作して飾っている。フラワーアレンジメントなども飾られている。テレビの前にはソファを置き、皆さんが交流し易いようにし、居心地よく過ごせるように配慮されている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろげるソファがある。自由な席な為、テーブルを利用して、気の合った同士過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様にしている。	居室は、自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に配慮している。部屋は2室の間にトイレがある生活し易い作りとなっており、部屋には洗面台、クローゼットがあり、出窓がお洒落である。回廊式の作りも生活しやすい作りとなっている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。。		

目 標 達 成 計 画

事業所

さくらの家一番館

作成日

平成23年12月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		活動の場面を支援する事で、より入居者様が主体の生活を送って頂けるとおもいます	入居者様が自発性を持ち、意向に沿った生活を送る事ができる。	入居者様の積極的な活動場面を全職員が統一して支援して行く。	12か月
2		全員で外出の他にも個別の意向に沿った、外出・買物などの支援の必要がある	意向に沿った外出等の支援ができる	意向の把握と企画の充実	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。